

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1 世界の資源と日本	日本は、エネルギー資源や鉱産資源に乏しい国であるが、現在では世界でもトップクラス的位置に存在する国であることをつかみ、どのように産業を発展させてきたのか関心を持つことができる。	<p>1 さまざまな資源の生産量ベスト3の国々を白地図に書き込み、気づいたことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源を産出する国は限られている。 ・日本はほとんど資源がない。 <p>2 日本で産出する資源を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原油、石炭、鉄鉱石などはほとんどとれない。 ・ほとんど輸入に頼っている。 <p>3 国民総生産を国別の統計で比較してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は、世界でもトップクラスだ。 ・資源など輸入に頼っているのに、どのように発展してきたのだろう。 <p>《単元を貫く課題》</p> <p>資源の少ない日本が、どのように発展してきたのだろう。</p>	<p><ア - ></p> <p>資源に乏しい日本と世界でもトップクラスの日本という矛盾点から課題や疑問を持っている。</p> <p><場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動3 ・授業後 <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート記述 ・発言 	<p>「資源の生産量」 「世界白地図」</p> <p>「日本の資源」</p> <p>「国別の国民総生産統計」</p> <p>援助 日本の資源の乏しさと世界トップクラスの生産量の矛盾点に着目させる。</p>
		日本は、世界的に見るととても資源が少ないことがわかった。国内にも多少の資源があるが、ほとんど輸入に頼っている。でも、国民総生産を見ると、日本は世界でもトップクラスに位置している。資源の少ない日本がどのように発展してきたのだろう。		
2 日本の工業	日本は、原料を輸入し工業製品を輸出している工業立国であり、太平洋ベルトを中心とした沿岸部に工業地帯が発達していることを理解する。	<p>1 日本の貿易の様子を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械製品の輸出がほとんどで、加工貿易である。 <p>日本の工業はどのような地域的特色を持っているのだろう。</p> <p>2 日本のおもな工業地帯・地域と生産額から気づいたことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東、東海、阪神に大きな工業地帯がある。 ・沿岸部に工業が発達している。 ・東北、北海道ではあまり発達していない。 ・原料を輸入しやすいから、沿岸部で発達している。 ・水島工業地域には、石油化学コンビナートがあり、さまざまな製品が作られている。 <p>3 原料を輸入しているところから課題はないのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貿易相手国の情勢など海外の影響を受けやすい。 ・貿易摩擦がおこる。 	<p><エ - ></p> <p>原料を輸入し、機械製品を多く輸出するために太平洋ベルトを中心とした沿岸部に工業地帯が発達していることを理解している。</p> <p><場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動1, 2 ・授業後 <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート記述 ・発言 	<p>「日本の貿易」</p> <p>「日本の工業地域と工業生産」 水島臨海工業地域</p> <p>援助 日本のどの地域に工業地帯が広がっているのかを読みとらせたり、白地図にまとめさせる。</p>
		日本は、海外から原料を輸入し、機械製品を輸出するという加工貿易を行い、工業化を進めてきた。また、工業地域もせまい土地の利用や加工貿易の必要性から臨海部に形成されている。水島工業地域では、臨海部に他の産業はどうなっているのだろう。		
3 日本の農業	日本の農業は、せまい限られた土地を有効に利用したり、品種改良などに努めたりして、生産性を高めていることを理解する。	<p>1 日本の耕地面積の特色を読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の耕地率は、約10%だ。 ・アメリカと比べると、30分の1でとても小さい。 <p>日本では、せまい土地でどのように農業をしているのだろう。</p> <p>2 米作り、野菜作りの特色をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候にあわせて品種改良を行っている。 ・ブランド米として売り出している。 ・野菜作りでは、ビニルハウスを利用し1年中出荷できるような工夫をしている。 ・集約的な農業を行っている地域もある。 ・扇状地や台地などを利用した果樹栽培も行われている。 <p>3 今後の農業のあり方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貿易の自由化によって多くの農産物が外国から入ってくるようになってきた。 ・日本は高品質を重視して、生産性を高める工夫が必要だ。 	<p><ウ - ></p> <p>日本の農業における生産性を高める方法について品種改良やビニルハウスを使っの年間出荷、台地などを利用した栽培など1つ以上の方法をまとめている。</p> <p><場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動2 ・授業後 <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記述 ・発言 	<p>「世界の統計」</p> <p>「こめづくり」 「高知の促成栽培」 「電照菊」</p> <p>援助 土地がせまい日本で多くの農産物を生産するためにどのような工夫がされているのか視点を与える。</p>
		日本は、せまい耕地でも確実に収穫できる工夫が行われている。稲作では、品種改良が行われ、ブランド米が売り出されている。その他の農作物でも、ビニルハウスを使って1年中収穫できるように工夫や努力が行われていることが分かった。今後の農業の在り方についても考えていきたい。		

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
4	<p>養殖が増加している理由を、利益や将来的な視点から考えることができる。</p> <p>日本の林業・水産業</p>	<p>1. 世界の漁場と日本の漁業がさかんな地域を探そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界三大漁場 ・東北地方の太平洋側など <p>2. 日本の漁獲高のグラフを見てみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁獲高が減少している。 ・輸入や養殖が増加している。 <p>輸入や養殖が増加しているのはなぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200海里経済水域が設定された。 ・「とる漁業から育てる漁業」への取り組みが進められた。 <p>3. 林業ではどのような変化が起こっているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸入木材が増え、世界一の木材輸入国となっている。 ・林業も水産業も後継者不足が課題となっている。 	<p><イ - ></p> <p>水産業や林業の問題点を貿易などの外国との関係や後継者問題、利益などの視点から1つ以上ノートにまとめている。</p> <p><場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動2、3 ・授業後 <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート記述 ・発言 	<p>地図帳</p> <p>日本の漁獲量</p> <p>援助</p> <p>水産業では、漁獲高が減少し、輸入や養殖が増加している様子、林業では輸入木材が増加している様子を読みとらせる。</p>
		<p>漁獲高が減少し、養殖や栽培漁業、輸入が増加している。水産資源や将来性を考えると、「とる」から「育てる」ことは、とても大切なことだ。林業についても輸入材が使用されている。農業、水産業、林業と輸入に頼る傾向があるけどそれでいいのかな。</p>		
5	<p>日本全国の伝統工業は、その土地の伝統的な生活や文化、自然を生かして発達していることを調査し考えることを通して、それぞれの地域で環境に対応した産業が行われていることを理解する。</p> <p>さまざまな産業</p>	<p>1. どのような環境でどのような産業が行われているのか確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平野に水田が広がっている。 ・都市部や臨海部に工業地域が広がっている。 ・環境と産業には関わりがありそうだ。 <p>日本の伝統工業はどんな背景から生まれたのだろう。</p> <p>2. 日本の伝統工業をあげて、調査してみよう。</p> <p>輪島塗（輪島）、九谷焼（金沢）津軽塗（青森）南部鉄器（岩手）会津塗（福島）など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒い冬、農家の副業として生まれてきた。 ・地域に伝わる技術や材料を生かしている。 <p>3. その他の産業と環境との関わりを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業の立地 都市部や郊外 ・工業地帯 臨海部（社会環境の変化に対応） ・農業 稲作、高原野菜、施設園芸農業 ・観光産業 スキー、登山、海水浴、温泉（自然環境にあわせた開発） 	<p><ウ - ></p> <p>日本の伝統工業を資料をもとに5つ以上書き出し、その中からひとつを取り上げ、その伝統工業が生まれた背景を地域の自然環境や特産物と関連づけてまとめている。</p> <p><場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動3 ・授業後 <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート記述 ・発言 	<p>日本の環境と産業地域</p> <p>図書館の文献</p> <p>インターネット</p> <p>援助</p> <p>資料から見つけ出した伝統工業を白地図などに書き出させ、自然環境などの類似点の視点を与える。</p>
		<p>日本の産業は、自然環境や社会環境にあわせて発展してきた。伝統工業もその一つで、その地域の特産物や自然環境などを生かして発展してきた。日本は、資源に乏しく、狭い国土だが、その土地を有効に利用し産業を発展させてきたんだ。今後はどうなっていくだろう。</p>		
6	<p>国際化が進み、日本の社会のシステムの転換がせまられていることをつかみ、さらに進んでいこう国際化と環境の視点から日本が進む道を考えることができる。</p> <p>国際化時代の産業と環境</p>	<p>1. 産業における国際化の様子を確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者が増えてきた。 ・日本へ進出する外国企業も多い。 <p>国際化の中で、日本の産業はどうあるべきなのだろう。</p> <p>2. 資料から、あるべき姿を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国から来た人と共に生きていくための支援が必要だ。 ・世界の企業を相手にしていかななくてはならない。 ・資源は、日本だけのものではなく、世界のもの。 ・輸入すればよいのではなく、省エネも考えないと。 ・使い捨てではなく、リサイクルを考えていかななくてはならない。 ・大量生産、大量消費の時代から、リサイクルや環境に配慮した商品開発も大切だ。 	<p><イ - ></p> <p>国際化が進む中、今後の日本の産業のあるべき姿を、外国人労働者や環境といった視点で考えている。</p> <p><場面></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習場面2 ・授業後 <p><方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノート記述 ・発言 	<p>外国人労働者の変化</p> <p>外国企業</p> <p>限りある資源</p> <p>リサイクル</p> <p>京都議定書</p> <p>援助</p> <p>外国で働く場合や町にゴミがあふれている様子を思い浮かべよう助言する。</p>
		<p>国際化が進んでいく中で、日本は、自分の国のことだけを考えていてはいけない。労働者の問題や、資源の問題、そして地球規模での環境の問題など、世界中の人々とともに考え、解決していくことが大切だ。自分も、環境についてはできることから始めていきたい。</p>		

